



シエーナウ電力会社が 菅元首相に「脱原発勇敢賞」

チェルノブイリの反原発運動から生まれたシエーナウ電力会社は4月末、福島原発事故当時に首相を務めていた菅直人さんに「脱原発勇敢賞」を授与した。私はシエーナウ電力会社についての本を書いたのが縁で、菅さんの通訳を4日間務めることになった。

ドイツ滞在中、福島についての講演、シエーナウ電力会社訪問、フランクフルト市庁舎での授賞式、エネルギー視察…と盛りだくさん。南ドイツのシエーナウに向かう列車の中では、菅さんの「取扱説明書」をもらった。ペットのことや、好きなもの、「『いら菅』モードに入ったら甘いもの、特にあんこ類をあげましょう」などイラスト入りで解説。陳情や調べもののお手伝いもしてくれるとのこと。親しみがわく内容だった。

シエーナウ電力会社では地元のテレビ局が待機して、逐一撮影。社内を見学しながら説明を受けたあと、地元の市長や郡議員、市民活動家たちと1時間、意見交換をした。こうして地元の人と話しあう機会を設けるところが、すごくシエーナウらしいと思った。元首相と話す機会なんて、そうそうないでしょう。

翌日の授賞式で菅さんは「以前は他国に日本の原発を勧めていた。ほかの国の原発を使うくらいなら、日本の方が安全だと思っていた。しかし福島原発事故に遭遇し、日本の原発は安全という考えを180度変えた」

フランクフルトでは自転車タクシーでエコツアー
「もう少し事態が悪化していれば、東京を含む5000万人が避難しなければならなかった。このような被害は大きな戦争に負けたとき以外考えられない」と演説した。列席していた高校生グループは「生きた歴史の授業だ。自分の間違いを認めたのがすごい」と感激し、シエーナウのセバスチアン・スラーデク社長は「核の平和利用と軍事利用を分けようとする人が多いが、菅さんは原発と戦争は同じ大きさの被害をもたらすと指摘した」と評価した。

シエーナウがこの賞を菅さんに与えたのは、菅さんが著名人だからということもある。日本のメディアに取り上げてもらうことで、日本で脱原発を求めるすべての人を応援したいという考えからだった。私にとってもいろんな意味で学びの多い、4日間となった。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

ドイツで子育て



いつか乗りたいと願っていたピースボートに今、乗っています。日本人約1000人が100日ほど世界一周するもの。私はイタリアからドイツまで12日間、水先案内人として乗船し、ドイツの概要や再生可能エネルギーについてレクチャーしています。

せっかくの機会なので、明と日本の母も連れてきました。船は巨大だし、船で寝るのは初めてだし、明は大興奮。船内唯一の子どもなので目立ち、乗組員やお客さんたちに紙飛行機やお菓子をもらい、卓球や将棋の相手をしてもらって、夢のような毎日です。今から「また乗りたい」というので「大きくなったら仕事で乗ってね。コックさんか技術者か通訳か、何で乗る？」ときいたら「船長さん！」とのこと。うーん、通訳なら可能性があるかと思ったけど、操縦士として乗るのはかなり難しそう。いつか実現するかしら。